

花鳥風月・短歌

私にもできることありひとりですわり

ささえてあげ手をにぎりしめ

曾我部 福石

銀行で新札ばかり手渡され

緊張すぎて我を失う

塗塀 良子

氏子らの安寧願ふ神輿渡御

お旅所で巫女浦安を舞ふ

徳永 誠一

柿の実が撓わに実るもあっけなく

サルの餌食に見るも無惨に

佐伯 定則

凧も橋を渡ってくるのかと

孫の素朴な疑問の数々

切干の大根少しずつ乾き

くねくねくねとその身をよじる

小田 和子

秋祭神より賜る晴天を

感謝で終えて健康願う

三谷 福美

イケメンの日本バレエのサクレッツぞ

対アメリカと我胸に手を

石井 トシ子

暑い夏終りと共に秋風が

そいと近ずき走り去る

一色 ノブ

来客の無き地方祭

太鼓かねの音耳に入らず

小林 泰子

神たちは旅に出かけているらしい

こんなに地球もめているのに

粕汁の湯気に眼鏡が曇り出す

幸せする夕餉の時間

小田 慶喜